

# シグマ委員会核データ専門部会グループリーダー会合

## (1982年度第2回) 議事録

- 日 時 1983年3月22日(火) 11:00~14:00
- 場 所 原研本部第6会議室
- 出席者 菊池, 浅見(原研), 神田(九大), 北沢(東工大), 松延(住原工),  
飯島, 村田, 川合(NAIG)
- 配布資料 GL-82-17: 第1回グループリーダー会合議事録(7/15)
- 82-18: ガス生成核データ Sub W.G. 57年度作業経過  
および58年度作業計画
- 82-19: 核融合核データワーキング・グループ活動
- 82-20: 核融合炉・遮蔽定数 W.G. 資料
- 82-21: JENDL-3 収納核データ評価分担表(案)
- 82-22: JENDL-3 収納予定核種
- 82-23: ガンマ線生成核データ W.G. の57年度活動及び  
58年度計画
- 82-24: 実験法評価サブ W.G.
- 82-25: FP核データ W.G. の57年度活動及び58年度  
計画

### 議 事

1. 核データ評価 W.G. の活動
  - a) 実験法評価 S.W.G.
    - 報告書のまとめを急いでいる。
  - b) 中重核 S.W.G.
    - 結合チャンネル光学模型コード ECIS76 の整備を待っている。
  - c) 重金属 S.W.G.
    - 一回会合を持ったのみである。来年度は担当核種を決めて評価する。
  - d) ガス生成 S.W.G.
    - GNASH を手分けして解読し, かなり使いこなせるようになった。
    - I/Oが多すぎるのが難点

- オプションにより、変な結果がでるので、built-in parameters を中心に検討している。
  - 対象核種の選定作業を行った。
- e) 重核 S. W. G. の 83 年度発足について
- 今年度は watch で良かったが、JENDL-3 のための再評価が必要。
  - 感度解析の結果も出ているので、本格的な同時評価も考えられる。
  - 同時評価のためには、特定機関に委託も考えられるが、連絡機関としての S. W. G. は必要
  - とりあえず、JENDL-2 の関係者を中心に発足し第 1 回会合を 4 月中に開く。
  - 世話役はとりあえず菊池氏が行う。
2. FP 核データ W. G. の活動
- R. P. の評価がかなり遅れている。
  - ファイル化の作業体制が確立していない。ファイル化 W. G. に協力を求める。
  - ファイル化のマニュアルが必要である。
3. 核融合炉核データ W. G. の活動
- 評価はしないのが建前だったが、FNS における日米共同実験に必要なデータの recommendation の一環として  ${}^6\text{Li}$ ,  ${}^7\text{Li}$ ,  ${}^{16}\text{O}$  のデータ評価を行う。
  - これらは JENDL-3 の評価と考えるが、時間的制限があるので、その第一ステップと考えている。実験値の調査から始め、従来の評価値と比較しながら独自の評価を目標とする。
  - 軽核全体の評価は別途新たな S. W. G. で進めるのが望ましい。
  - 核融合炉・遮蔽定数 W. G. での DDX データのプロット作業との交流を計るため、井口氏がこの W. G. に参加する。また、その他大学関係者の参加も検討する。
  - MeV 領域での実験値と評価値の比較プロット作業はファイル化 W. G. と調整をとって行う。
4. ガンマ線生成核データ W. G. の活動
- 現在行っている 10 核種中  ${}^{23}\text{Na}$ ,  ${}^{27}\text{Al}$ , Si, Fe, Mo,  ${}^{93}\text{Nb}$ , W,  ${}^{238}\text{U}$  の 8 核種については報告書を JAERI-M report または memo で 8 月位までには出版する。

- それ以上の核種を増やすには増員が必要だが、種々のパラメータの consistency を考えると、中性子データの担当者が $\gamma$ 線も評価するのが望ましい。
  - そのために必要なマニュアルは前述のレポートに詳述する。
  - 標準的な手法でやってもうまく行かない場合には、当 W. G. でバック・アップして対処する。
  - 以上の方針は討議のすえ了承された。
  - Fission  $\gamma$  の評価はまだ確立されていない。
5. ファイル作成 W. G. の活動
- JENDL-2 は82年度末でリリースされる予定。
  - JENDL-2 のコメント (File 1) と最終報告の原稿は、近く format を決めて、各評価者に依頼する予定。
  - JENDL-2 のデータ集について、核融合炉核データ W. G. と協力してプロットを行う。
  - 1983年度前半はFPのファイル化を手伝う。
  - delayed  $\gamma$  の収納について format の検討を行う。
6. JENDL-3の作業分担
- 浅見氏からGL-82-21にもとづいて分担案の説明があり、一応了承された。
  - 核種がJENDL-3の当初の規模から増えすぎていて、83年度中に評価を終了するのは無理ではないかとの意見があった。
  - 核データセンターで、EXFORのデータを早急に取り寄せる事となった。
7. その他
- 83年度に入ったら、重核 S. W. G., 軽中重核 S. W. G., 重金属 S. W. G., ファイル化 W. G. は至急に会合を開き、今年度の具体的方針を決める事が要求された。